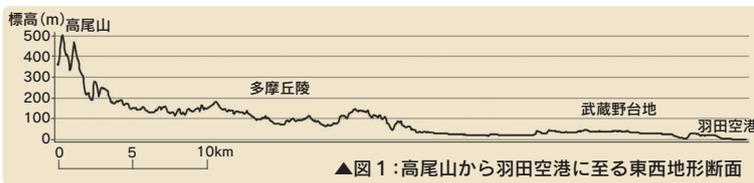




大丸 裕武 Daimaru Hiromu
研究ディレクター

最近の高尾山は海外からの観光客で混みあっていますが、人気の理由は静かな雰囲気と関東平野を一望できる山頂からの眺めでしょう。地形断面(図1)でもわかるように、眺望の理由は高尾山が山地と関東平野の境界にあるためです。

山地と平野は成因がまったく異なります。高尾山周辺の山地は、恐竜が陸上を闊歩していた約1億年前の白亜紀の海の地層が、プレート運動によって隆起してきたもので、その骨格は非常に硬い岩石でできています。一方、関東平野の地層は約

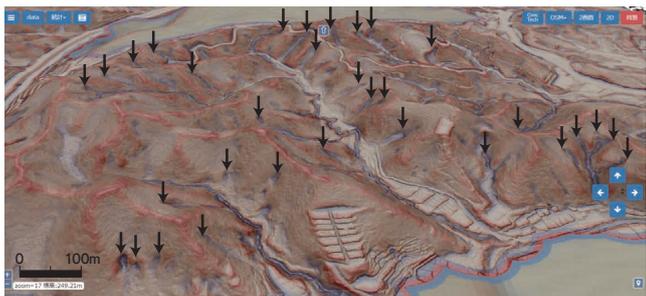


■ 地形から高尾の山の成り立ちを考える ■

(2018年12月8日開催講座より)

森林が育つことで、山崩れはしにくくなり、わたしたちが現在みている静かな高尾山の姿は、山を覆う豊かな森林の賜なのです。

100万年前以降に山から崩れ落ちた土砂が川で運ばれてきたもので、スコップで崩せる硬さのものが中心です。里山として有名な多摩丘陵も山地から来た土砂でできており、地形としては平野の仲間です。山崩れの土砂で平野ができるといわれても実感しにくいのですが、飛行機からのレーザー測量で作成した精密な地形図(図2)をみると、大昔の山崩れの痕跡(矢印)があちこちにみられ、高尾山の周辺でも、かつては頻繁に山崩れが起きていたことがわかります。昭和初期までの日本の山では草原や低木林が多く、現在よりも頻繁に山崩れが発生していたと考えられています。



▲図2:航空機レーザー測量で計測した多摩森林科学園周辺の地形(ひなたGISより転載)

森林講座のお知らせ

1月17日(金曜日)

「木を発酵させて造る、
香り豊かなアルコール
—世界初の「木のお酒」を目指して—」
大塚 祐一郎(森林資源化学研究領域)

2月14日(金曜日)

「サクラ等を食い荒らす外来昆虫
クビアカツヤカミキリの生態と防除」
加賀谷 悦子(森林昆虫研究領域)

3月6日(金曜日)

「-196℃で樹木を保存する」
遠藤 圭太(林木育種センター)

会場●多摩森林科学園 森の科学館

時間●13時15分～15時

受講料●無料

お申込の受付は各講座開催日の前月の1日から。

受付は先着順で、講座開催日の1週間前が締切となります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、往復はがき、または電子メールでお申し込みください。

なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

◆お問い合わせ

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

多摩森林科学園

電話番号:042-661-1121

Email:shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp



◀電子メール送付先
二次元バーコード